

決算説明会

2026年3月期 第3四半期

ミネベアミツミ株式会社

2026年2月5日

吉田です。
2026年3月期第3四半期の連結実績についてご説明します。

3Q連結業績サマリー

売上高、営業利益とも予想を上回る

(億円)	2025年3月期		2026年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	3Q	2Q	3Q	2Q		
売上高	3,696	4,114	4,539		+22.8%	+10.3%
営業利益	262	270	308		+17.8%	+14.3%
税引前利益	239	248	293		+22.4%	+18.2%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	174	177	208		+19.4%	+17.5%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	43.36	44.07	51.79		+19.4%	+17.5%

為替レート	2025年3月期		2026年3月期	
	3Q	2Q	3Q	2Q
US\$	149.03円	146.33円	151.50円	
ユーロ	161.99円	169.94円	176.38円	
タイバーツ	4.42円	4.50円	4.69円	
人民元	20.88円	20.39円	21.28円	

2026/2/5

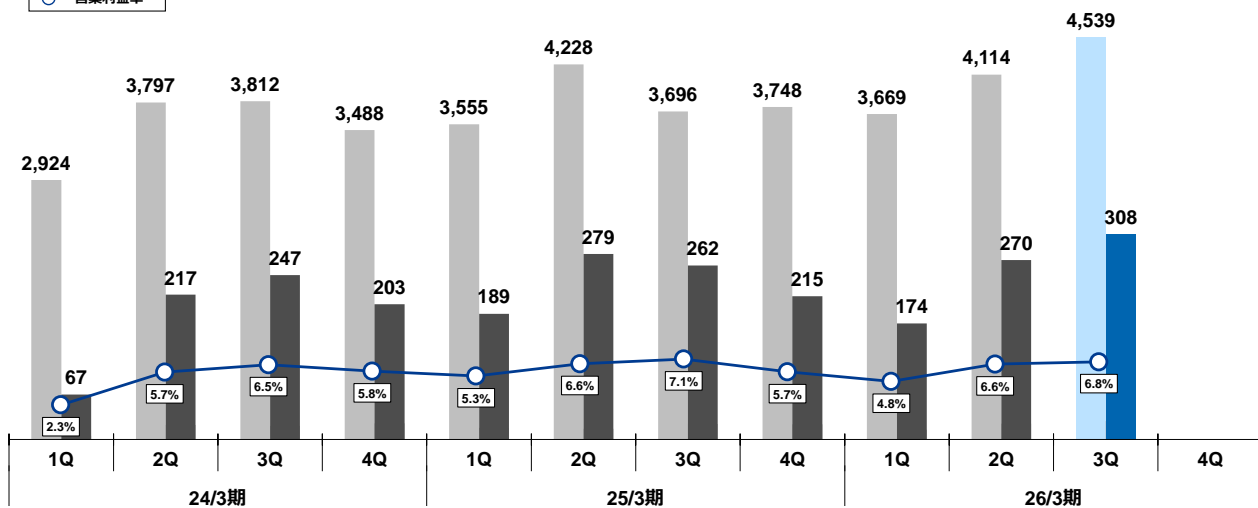
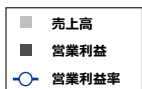
2

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

2026年3月期第3四半期の連結業績は、売上高は、前年同期比で22.8%増、前四半期比10.3%増の4,539億円となりました。営業利益は、前年同期比で17.8%増、前四半期比14.3%増の308億円となりました。親会社の所有者に帰属する四半期利益は、前年同期比で19.4%増、前四半期比で17.5%増の208億円となりました。売上高、営業利益とも計画を上回る結果となりました。第3四半期は、売上高で前四半期比プラス128億円、前年同期比プラス96億円、営業利益は前四半期比で、プラス17億円、前年同期比でプラス2億円の為替影響がありました。

売上高、営業利益、営業利益率

(億円)



2026/2/5

3

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

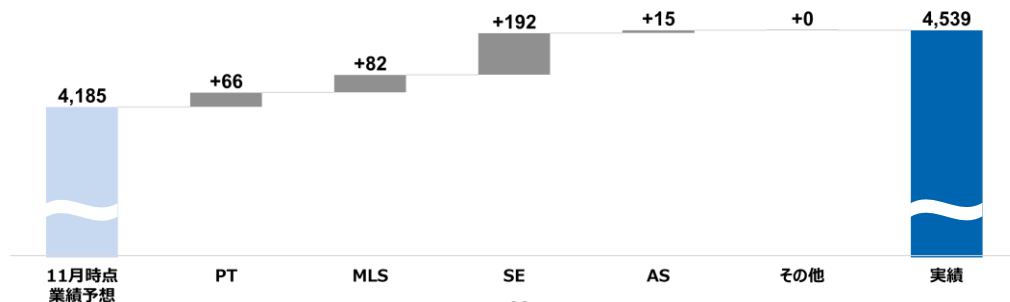
売上高、営業利益、営業利益率の四半期ごとの推移です。

第3四半期の営業利益率は6.8%となりました。これは前年同期比では0.3ポイント減少、前四半期比では0.2ポイントの上昇となりました。

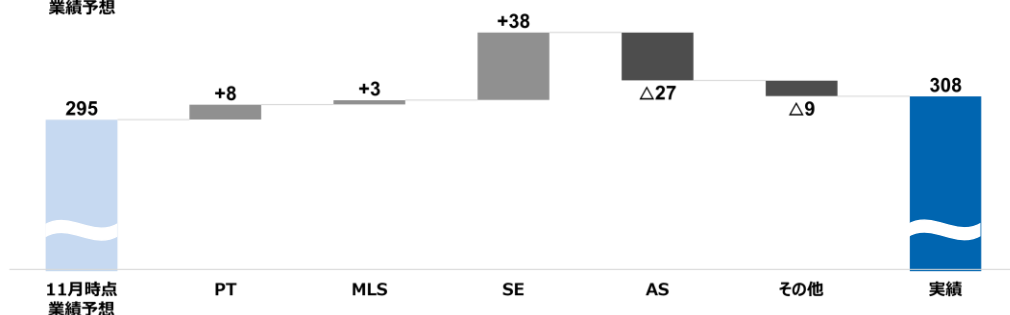
3Q実績 前回予想（2025年11月6日）からの差異

(億円)

売上高



営業利益



2026/2/5

4

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらは、第3四半期の売上高、営業利益の実績につきまして、11月の決算発表時の業績予想からの差異についてセグメント別に示したものになります。

売上高においては、

PTは、主にデータセンター向けや自動車向けのベアリングが好調で、想定を上回りました。

MLSは、HDD向けモーターやライティングデバイスを中心に堅調に推移し、想定を上回りました。

SEは、リチウム電池保護IC等の半導体や機構部品が好調に推移し、想定を上回りました。

ASは、車載デバイス等を中心に想定を上回りました。

営業利益においては、

PTは、ベアリングの生産数量増加により、想定を上回りました。

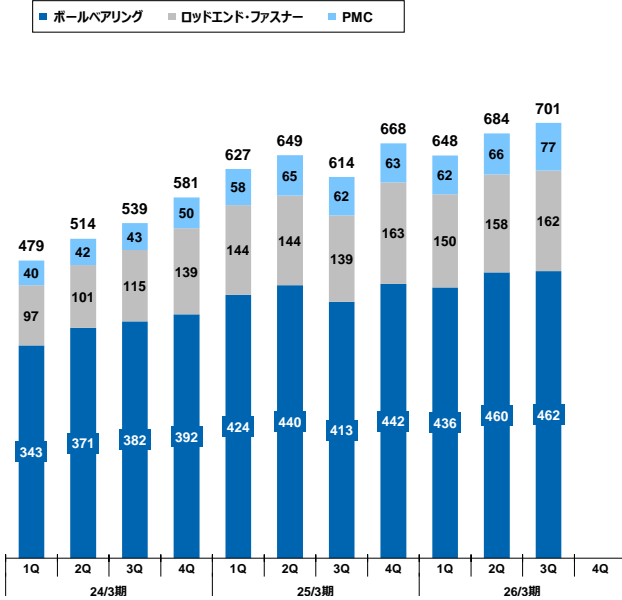
MLSは、ライティングデバイスが堅調に推移し、想定を上回りました。

SEは、機構部品が堅調で、想定を上回りました。

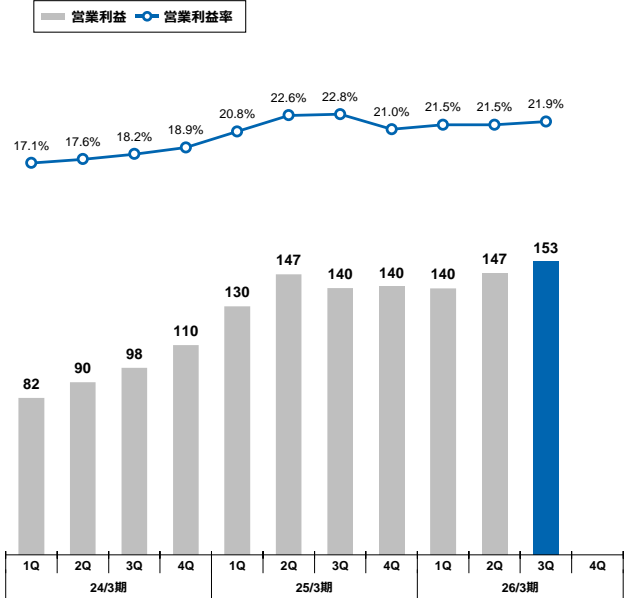
ASにつきましては、北米向け製品において、ネクスペリアからの半導体供給停止に伴う、顧客の生産調整による影響が生じ、想定を下回りました。

プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

売上高 (億円)



営業利益 (億円)



2026/2/5

5

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらはプレジジョンテクノロジーズセグメントの四半期ごとの推移です。左側のグラフが四半期ごとの売上高の推移を、右側のグラフは棒グラフが営業利益、折れ線グラフが営業利益率を表しています。

第3四半期の売上高は701億円、前四半期から2.5%の増加となりました。ボールベアリングの売上高は462億円で、前四半期比で0.5%増となりました。外販数量は月平均で2億7,700万個、前四半期比で横ばいとなりました。データセンターおよび車載向けの堅調な推移に加え、生産・販売数量の増加が寄与しました。

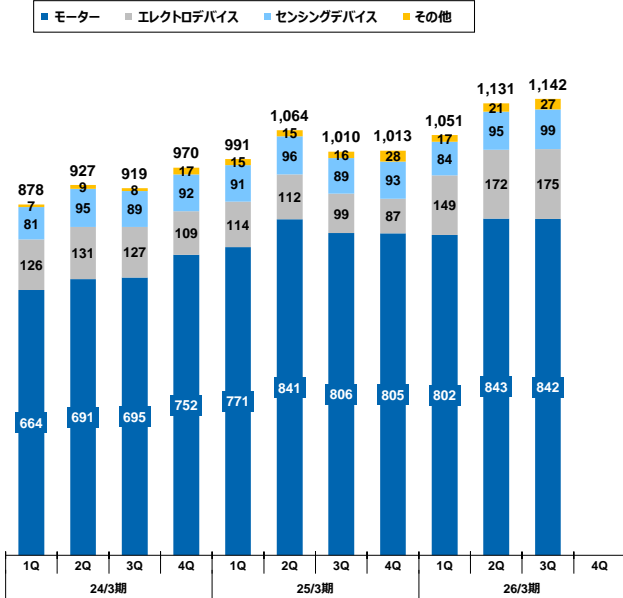
ロッドエンド・ファスナーの売上高は162億円となり、前四半期比で2.8%の増加となりました。PMCの売上高は77億円となり、前四半期比で15.4%の増加となりました。

営業利益ですが、当四半期は153億円、営業利益率は21.9%となりました。前四半期比では、営業利益は6億円の増益、営業利益率は0.4ポイント増となりました。

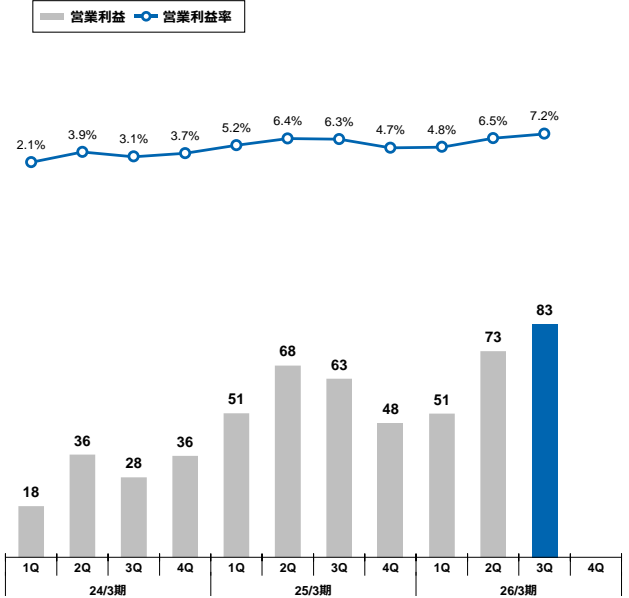
なお、本実績には2025年10月より連結した ミネベアリニアモーション株式会社の数値が含まれております。

モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

売上高 (億円)



営業利益 (億円)



2026/2/5

6

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらはモーター・ライティング&センシングセグメントの四半期毎の推移です。

売上高は1,142億円、前四半期比で1.0%増となりました。

製品別では、モーターの売上高は842億円となり、前四半期比で0.2%減となりました。HDDおよび車載向けは堅調に推移したものの、OA向けモーター等が顧客の生産調整に伴い、減少した事によります。

エレクトロデバイスの売上高は175億円となり、前四半期比1.4%の増加となりました。

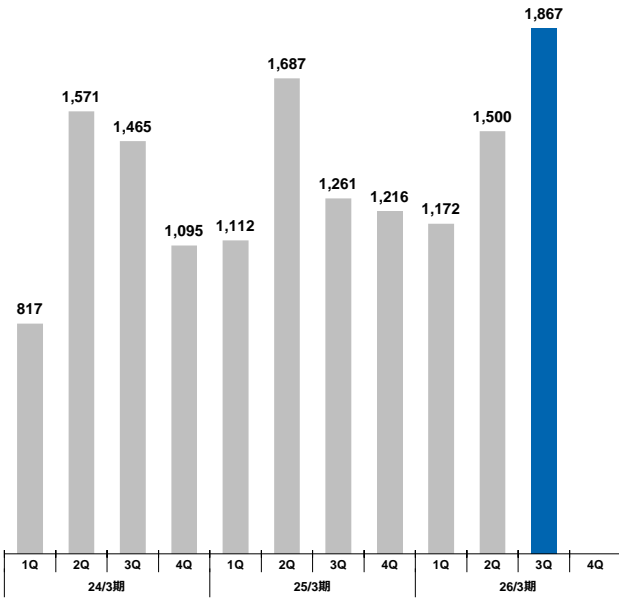
センシングデバイスの売上高は99億円となり、前四半期比4.1%増となりました。

営業利益は83億円、営業利益率は7.2%となりました。

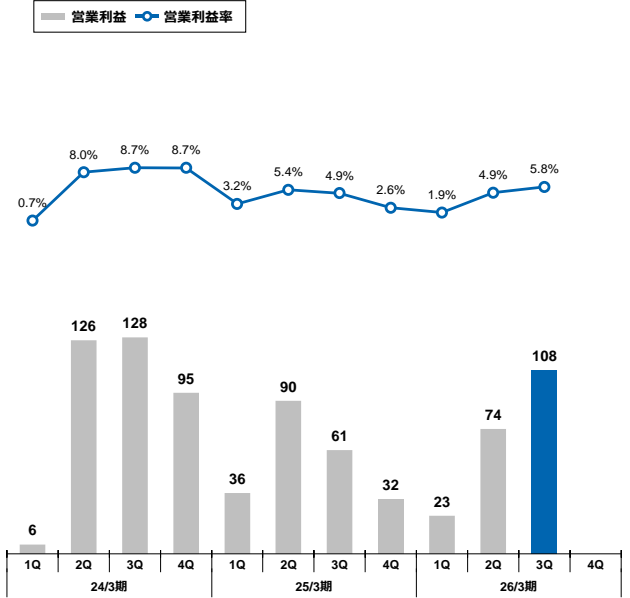
前四半期比では、営業利益は10億円の増益、営業利益率は0.7ポイント増となりました。

セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (億円)



営業利益 (億円)



2026/2/5

7

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

セミコンダクタ&エレクトロニクスセグメントの四半期毎の推移です。

売上高は1,867億円と、前四半期比24.4%の増加でした。

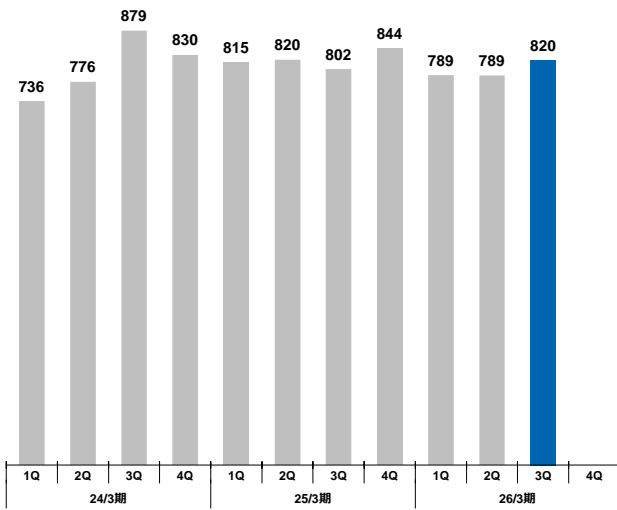
これは、アナログ半導体に加え、光デバイスや機構部品が堅調に推移した事によるものです。

営業利益は108億円となり、営業利益率は5.8%となりました。

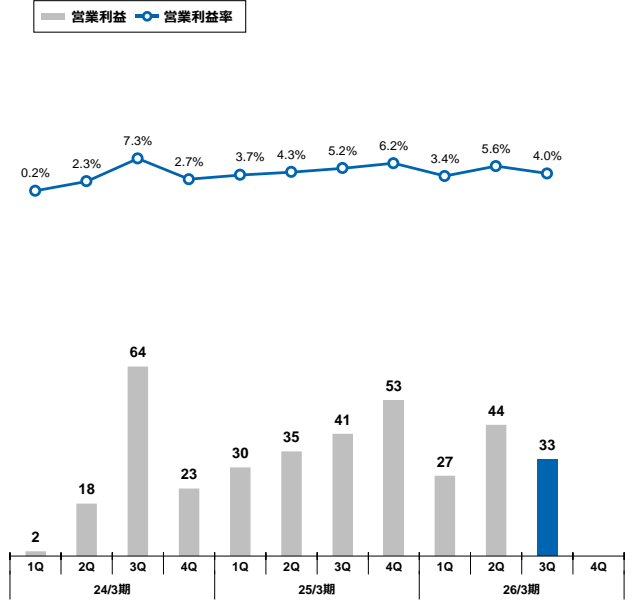
前四半期比では、営業利益は34億円の増益、営業利益率は0.9ポイントの上昇となりました。

アクセスソリューションズセグメント (AS)

売上高 (億円)



営業利益 (億円)



2026/2/5

8

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

アクセスソリューションズセグメントの四半期ごとの推移です。

売上高は820億円、前四半期比で、3.9%の増加となりました。

営業利益は33億円、営業利益率は4.0%となりました。

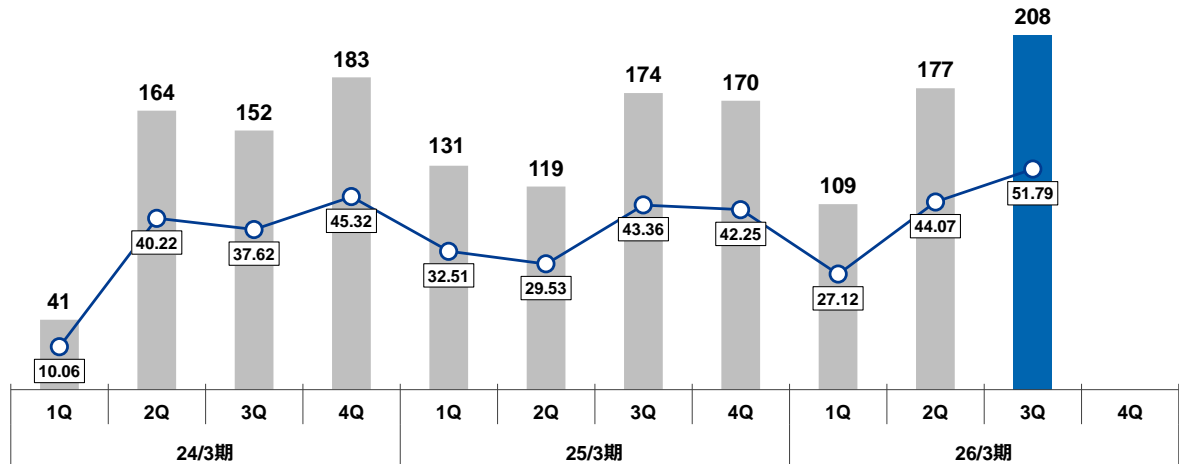
前四半期比では、営業利益は12億円の減益、営業利益率で1.6ポイント減となりました。

前述のネクスペリア関連の影響を受けましたが、4Q以降は回復する見込みとなっております。

親会社の所有者に帰属する四半期利益 / EPS

(億円)

■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益 ● 基本的1株当たり四半期利益 (円)



2026/2/5

9

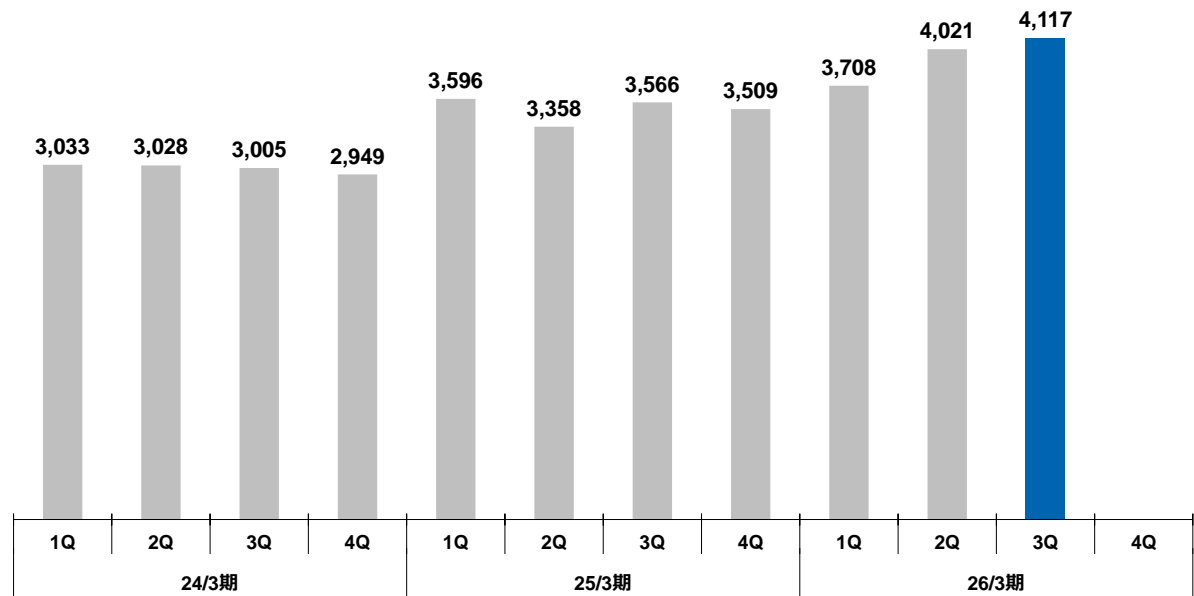
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

このスライドは、親会社の所有者に帰属する四半期利益の推移を棒グラフで、1株当たり四半期利益の推移を折れ線グラフで表しています。

四半期利益は208億円、1株当たりでは51.79円となりました。

棚卸資産

(億円)



2026/2/5

10

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

続きまして、棚卸資産の四半期ごとの推移です。

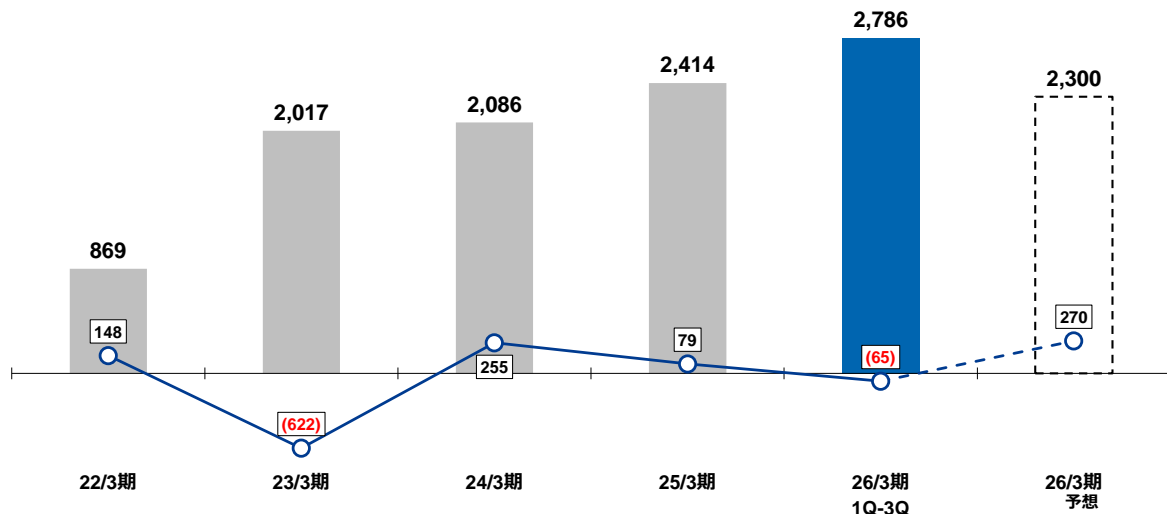
第3四半期末は4,117億円となり、3カ月前と比べると96億円の増加となりました。

これは主に、第4四半期以降見込まれている販売増加のために必要な在庫を戦略的に積み上げたことなどによります。

ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

(億円)

■ ネット有利子負債* ● フリーキャッシュフロー



*ネット有利子負債：連結財政状態計算書上の「社債および借入金」 - 「現金および現金同等物」+ 3か月超の定期預金

2026/2/5

11

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の推移を棒グラフで、フリーキャッシュフローの金額を折れ線グラフで表しています。

第3四半期末におけるネット有利子負債は2,786億円となり、2025年3月末から372億円増加しました。2026年3月期のフリーキャッシュフローに関しては、270億円を計画しており、通期のネット有利子負債は2,300億円を想定しています。

業績予想

売上高、営業利益ともに上方修正

(億円)	2025年3月期	2026年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	15,227	7,783	8,217	16,000	+5.1%
営業利益	※ ¹ 945	444	566	※ ² 1,010	+6.9%
税引前利益	826	404	556	960	+16.2%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	595	286	424	710	+19.4%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	147.58	71.18	105.62	176.80	+19.8%

為替レート	2025年3月期 通期	2026年3月期 4Q想定
US\$	152.61円	155.00円
ユーロ	163.89円	182.50円
タイバツ	4.36円	5.00円
人民元	21.12円	22.20円

※¹ 50億円程度の一時費用が含まれています
 ※² 40億円程度の構造改革費用が含まれています

2026/2/5

12

MinebeaMitsumi
 Passion to Create Value through Difference

2026年3月期の通期業績予想です。売上高、営業利益ともに、11月時点の予想から上方修正いたしました。

営業利益につきましては、40億円程度の構造改革費用の計上を見込んだ上で、1,010億円としております。

為替レートは1ドル155円を想定しています。

セグメント別業績予想

(億円)	2025年3月期 通期※	2026年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	15,227	7,783	8,217	16,000	+5.1%
プレジジョンテクノロジーズ	2,557	1,332	1,388	2,720	+6.4%
モーター・ライティング&センシング	4,077	2,183	2,207	4,390	+7.7%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	5,276	2,672	2,978	5,650	+7.1%
アクセスソリューションズ	3,281	1,578	1,622	3,200	-2.5%
その他	35	18	22	40	+13.3%
営業利益	945	444	566	1,010	+6.9%
プレジジョンテクノロジーズ	557	287	313	600	+7.7%
モーター・ライティング&センシング	230	124	146	270	+17.5%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	220	96	149	245	+11.3%
アクセスソリューションズ	159	71	94	165	+3.6%
その他	△12	△9	△11	△20	-
調整額	△209	△126	△124	△250	-

※2025年3月期通期実績については、セグメント変更による組み換えは考慮していません

2026/2/5

13

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらは、各事業セグメント別の予想です。

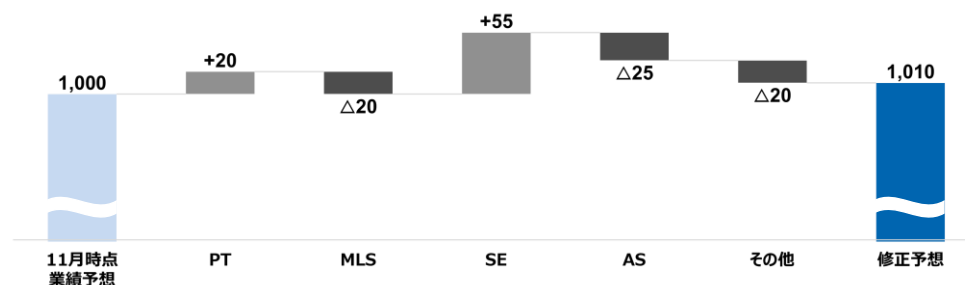
通期業績予想 前回予想（2025年11月6日）からの差異

(億円)

売上高



営業利益



2026/2/5

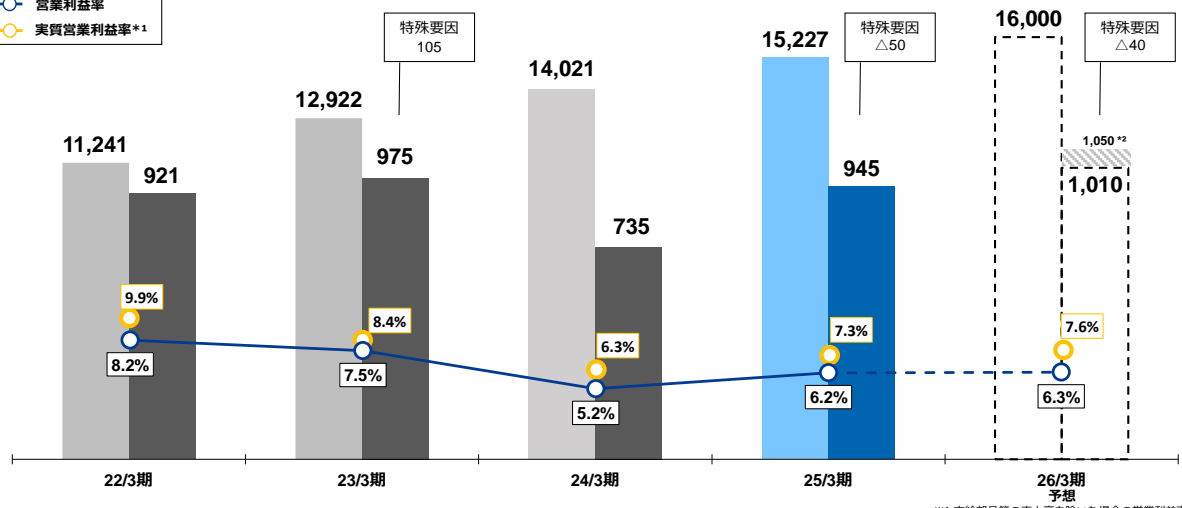
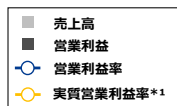
14

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

こちらは、今回の業績予想修正と11月時点予想の差をチャートでお示したものです。

売上高、営業利益、営業利益率、実質営業利益率

(億円)



※1 支給部品等の売上高を除いた場合の営業利益率
 ※2 特殊要因除く

2026/2/5

15

MinebeaMitsumi
 Passion to Create Value through Difference

こちらは売上高、営業利益、営業利益率、“支給部品等の売上高を除いた場合の営業利益率である”実質営業利益率の年度ごとの推移をお示したものです。

2025年3月期の実質営業利益率は7.3%でした。

2026年3月期の予想実質営業利益率は7.6%を見込んでいます。

以上で私からの発表を終わります。

本日のポイント

全体

- 売上高・営業利益は予想を上回り、3Qとして過去最高*を更新 (*特殊要因を除いた場合) タイバーツ高のなか、通期の売上高・営業利益を上方修正
- コア事業の着実な進展により27/3期以降の成長軌道を確認 (為替影響は限定的)
- CES2026展示製品は高評価。ヒューマノイドロボットをはじめ、成長する5分野が今後大きな追い風に

PT (プレジジョン テクノロジーズ)

- 26/3期営業利益600億円達成へ。ベアリングは12月単月生産3.5億個で過去最高 来期は年間で平均月産3.5億個体制へ

MLS (モーター・ライティ ング&センシング)

- モーター、エレクトロデバイスが堅調
- (AI)サーバー関連は、HDDスピンドルモーター、ファンモーターに加え、液冷システムのポンプ/バルブ用モーターや圧力センサーなど事業機会拡大

SE (セミコンダクタ& エレクトロニクス)

- 光デバイス、機構部品ともに期初計画達成へ
- ミネベアパワーデバイス(MPSD)とサンケン電気、民生・産業向けパワーモジュール事業の後工程生産で協業開始。28/3期量産開始目標

AS (アクセス ソリューションズ)

- 4輪は3Q半導体出荷停止(ネクスペリア)の影響を受けるも4Q以降回復へ
- 2輪は影響なく好調を維持

2026/2/5

16

本日の最大のポイントは、長年の課題であった「竹の節」、すなわち営業利益1,000億円の大台をついに超えることができるようになった点です。竹が節を経て再び力強く伸びるように、幾度もの挑戦の末にこの「節」を越えたことで、来期以降も成長が続くと確信しております。これが私からの最大のメッセージです。

今回はタイバーツが1ドル36パーツから31パーツ台へと短期間で急騰するという、通常であれば収益に大きな影響を与える環境下でしたが、こうした変動を乗り越えられる体力がついてきたのだと思います。

**通期業績予想 売上高1兆6,000億円、営業利益1,010億円 (前期比約7%増)へ上方修正
当期利益は据え置きも前期比約20%増**

業績予想
のポイント

- 売上高から税引前利益まで3Q累計は過去最高を更新。4Qも好調を維持
- 各事業が堅調に推移し、売上高を上方修正
- 構造改革費用約40億円計上を想定するも、営業利益も1,010億円へ上方修正

(億円)	2025年3月期			2026年3月期					
	1-3Q 実績	4Q 実績	通期 実績	1-3Q 実績	前期比	4Q 計画	前期比	通期 計画	前期比
売上高	11,479	3,748	15,227	12,322	+7.3%	3,678	-1.9%	16,000	+5.1%
営業利益	730	215	945	752	+3.1%	258	+19.8%	1,010	+6.9%
税引前利益	599	227	826	697	+16.2%	263	+16.1%	960	+16.2%
<small>親会社の所有者に帰属する</small> 当期利益	425	170	595	494	+16.2%	216	+27.4%	710	+19.4%
<small>基本的1株当たり</small> 当期利益 <small>(円)</small>	105.41	42.25	147.58	122.97	+16.7%	53.83	+27.4%	176.80	+19.8%

2026/2/5

17

3Qまでの累計は、売上高、営業利益、税引前利益ともに過去最高を更新しました。構造改革費用としての40億円を除けば、営業利益は1,050億円になっていた計算です。今回の上方修正は10億円に留めていますが、バッファーや為替変動リスク等を考慮したものであり、実質的には「営業利益1,000億円の大台は確実に超える」というメッセージとして捉えていただければと思います。

ベアリング生産数は12月に3.5億個を達成。データセンター市場・車載需要の拡大と航空機向けの利益貢献により、今期営業利益は600億円超の見通し

主なポイント

注力する5分野の進展によるベアリング所要の拡大

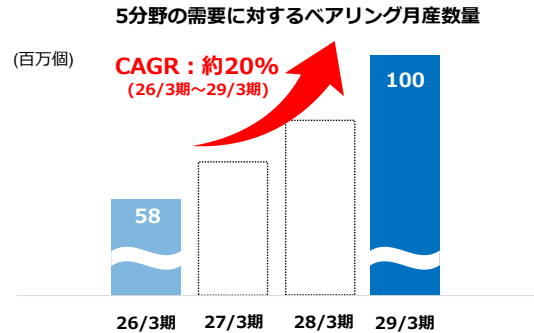
※5分野：AIサーバー、ヒューマノイドロボット、商用ドローン、完全自動運転、ニューモビリティ

1 ベアリング

- ・生産・販売数量は今期最高を更新。収益基盤を強化し、より強固な体制へ。生産能力拡大のための検討開始
- ・次世代GPUはチラー(コンプレッサー装置)不要の液体冷却で運用可能なため、ファンモーターを多数使用するLiquid to Air装置が当面優位であり当社にとっては追い風

2 ロッドエンド・ファスナー

- ・主要顧客とのLTA(長期契約)に基づく価格是正が進み、4Qからさらなる収益改善を見込む。来期は市場成長を上回る増収と価格適正化の相乗効果により、利益率拡大へ
- ・藤沢工場のベストプラクティスを全世界へ展開し、現有設備の稼働率を大幅に引き上げる



5分野を含む全体でさらなる需要拡大を見込む。来期は月産3.5億個の供給体制を整備

2026/2/5

18

今回、収益力向上の最大のドライバーとなっているのがプレジジョンテクノロジーズセグメントです。ベアリングは絶好調で、12月の生産数量は3億5,000万個、1月の外販数量は2億8,700万個と過去最高を記録しました。

1月に過去最高を記録したファンモーターおよび自動車向けベアリングの需要は依然として伸びしろがあり、生産体制を今期平均の月産3億2,000万個から来期は3億5,000万個へと引き上げる計画です。つまり月3,000万個の引き上げがベアリングの伸びしろとなります。

加えて、航空機部品の収益力向上も顕著です。

4Qに価格調整を実施するほか、稼働率が低い欧米工場の改善も進めています。これはオーダー不足ではなく、セット替えの時間や人手不足などオペレーションの問題によるものであり、現在、集中的に稼働率を上げる努力をしています。バックログ(受注残)は潤沢にあり、作れば売れる状況です。

そして、現地の責任者を交代し、以前私が藤沢工場で主導した「プッシュ型からプル型へ」という改革と同様の取り組みを開始しました。したがって航空機の伸びしろも大きく、来期の営業利益は10%程度向上すると見えています。

モーターは堅調に推移、(AI)サーバーでは幅広い事業機会を創出 車載向けバックライトは今後の収益貢献に期待

主なポイント

1 モーター

サーバー需要を追い風に、スピンドルモーターやファンモーターが堅調に推移

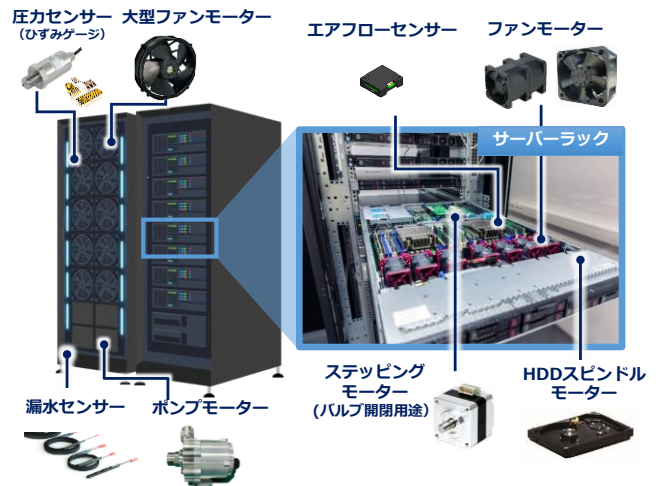
2 ライティングデバイス

車載向けバックライトは、新規量産立ち上げにより収益貢献が本格化

3 センシングデバイス

ひずみゲージを搭載した高付加価値製品の用途拡大(ヒューマノイドロボット等)により、事業機会を創出

(AI)サーバーにおけるMLS関連製品



多様な製品ラインアップを提供

2026/2/5

19

モーター、ライティング&センシングセグメントについてご説明します。

まず写真にお示した通り、AIサーバー関連製品の拡販余地はかなり大きいと見ています。ファンモーターも今期好調でしたが、来期は大型ファンモーターの受注なども含め、一段と成長する見込みです。また、スピンドルモーターについても、ヘリウムHDD対応製品の増産(月30万台、四半期で90万台)に向けた投資を行いました。これが来期の10月頃から収益に寄与するため、モーター事業は来期順調に伸びる見通しです。

ライティングデバイスは、「ピラーtoピラーディスプレイ向け」の増産開始に加え、タブレット向けの数量も回復したことで収益への貢献が始まります。センシングデバイスについては、ヒューマノイドロボットのハンド向け等のひずみゲージ搭載センサーの引き合いが急増しており、これらも徐々に収益に貢献していくと考えております。

アナログ半導体は電池保護ICと医療用機器向けが牽引 光デバイス、機構部品ともに期初計画達成へ

主なポイント

1 半導体

- ・リチウム電池保護IC等の需要が好調で、売上・利益とも堅調に推移
- ・ソシオネクストから取得した小型超音波診断装置の技術により、医療向け製品を拡充

2 光デバイス

- ・スマートフォンの需要好調により、通期では期初計画を達成する見通し
- ・ディスプレイ用(重希土類) フリー製品への切り替えが完了。最新の輸出規制強化の影響は受けられない見通し

3 機構部品

- ・顧客需要が好調、3Qは当初見込を上回る

パワーモジュール事業でサンケン電気と協業開始

- ・ 28/3期の**量産開始**を目標に、生産ラインをミネベアパワーデバイス 原町工場(福島県南相馬市)内に新設。民生品および産業品用**パワーモジュール(IPM*)**の**後工程生産で協力体制**を構築
- ・ 将来的には、前工程・後工程でパワーモジュールの**共同開発を推進**。開発期間を短縮し、製品ラインナップ拡充を図る
- ・ 31/3期に**100億円の売上増**を想定



* IPM: Intelligent Power Module

次にセミコンダクタ&エレクトロニクスセグメントです。

半導体は、パワー半導体の滋賀工場の稼働率向上にもう少し時間がかかるため、今期・来期ともに利益は横ばいの約240億円程度の見通しです。

ソシオネクスト製品の医療用デバイスについては、現在Gen2(体表部向け)まで進んでいます。体深部まで診断できるGen3の量産化は2027年1月頃、さらに高画質化されるGen4は2029年頃からの本格スタートを予定しています。従ってエイブリックは非常に好調です。

光デバイスと機構部品は当初の予定通りとなりました。

ネクスペリアの影響を受け自動車業界が減速するも4Q以降は回復見込み 構造改革費用を除けば計画に対しオントラック

主なポイント

1 4輪向けビジネス

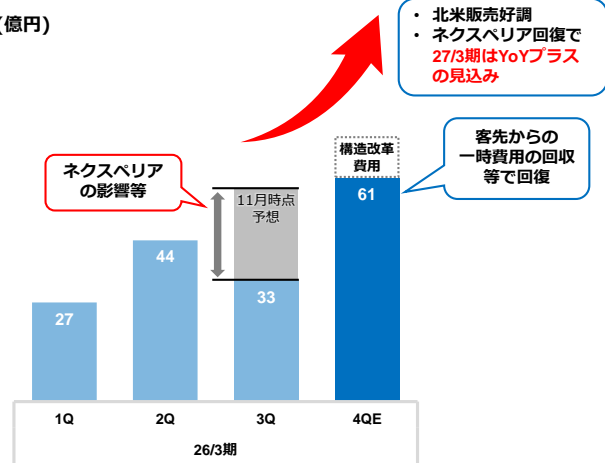
- ・3Qは北米向け製品がネクスペリアの半導体供給停止の影響を受け減速
- ・代替品・在庫確保は終わり、4Q以降に北米向けの増産を予定

2 2輪向けビジネス

- ・2輪全般は外部要因の影響を受けず堅調
- ・インド工場立ち上げ準備も順調

26/3期 AS営業利益

(億円)



- ・北米販売好調
- ・ネクスペリア回復で27/3期はYoYプラスの見込み

客先からの一時費用の回収等で回復

次にアクセスソリューションズセグメントです。

今期は、中国マーケットが日本勢にとって非常に厳しい環境となったことや、ネクスペリア社の半導体供給不足によるお客様の稼働停止といった外部事情により、非常にタフな時期を過ごしてまいりました。しかしながら、こうした逆風の中で約160億円の営業利益を確保できるめどがつついたことは、本セグメントにかなり実力がついてきた結果であると考えております。

ネクスペリアの件に関しましては、下半期に米国でリカバリー生産があるため、ある程度影響は限定的となる見通しです。厳しい環境下で利益を出せる力が備わってきたことを踏まえ、来期についても増益を予想しております。

当社CES展示は「相合」と「協創」が生む差別化により高評価 幅広い製品ラインナップでワールドワイドのお客様から受注・引合が加速

スマートかつパワフルなロボット手をCESで展示

世界最小クラス ロボット指先用多軸センサーの開発

ハーモニック・ドライブ・システムズ社との「相合」と「協創」

世界最小クラス×低消費電力・高感度×量産を実現

- 指1本に2種の減速比のアクチュエータ搭載
スピードとパワーを両立
- ワイヤー駆動による指先の軽量化、モーターの即応性により高速化

- MEMS・小型ひずみゲージを使用した多軸力センサーを指先に組み込み、指先に伝わる力、方向、つまむ部位をセンシング
- つまむ感触、滑る感触などリアルな感触を検知可能

Harmonic Drive®



極小減速機
※ミネベアミツミの
極小ベアリング
採用

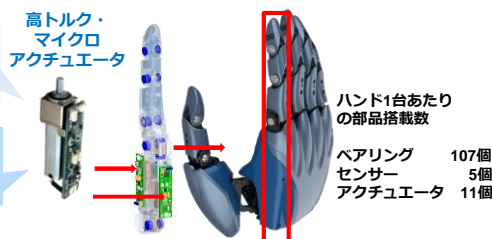
高トルク・
マイクロ
アクチュエータ



高レスポンス
DCモーター



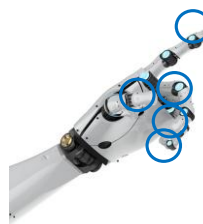
MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference



ハンド1台あたり
の部品搭載数

ベアリング	107個
センサー	5個
アクチュエータ	11個

開発中



2026/2/5

22

次にヒューマノイドについてです。

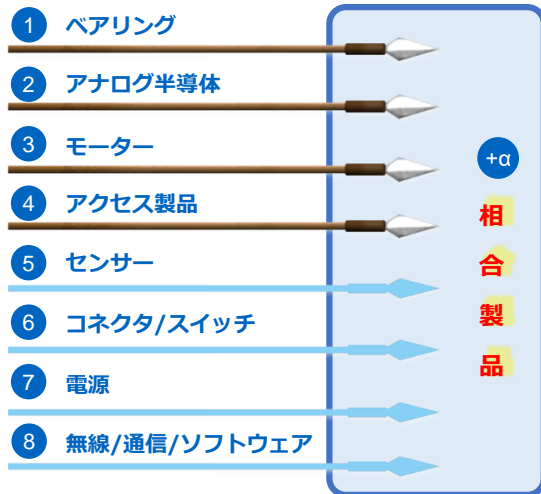
こちらは先日のIR Dayでもお示した内容と重複いたしますが、非常に多くの部品が搭載されます。ハンド部分には当社のボールベアリングが多用されておりますが、その他の部位には特殊なベアリングが使用されており、これらを当社で手掛けるかどうかを現在検討しているところでございます。

CESではハンドのデモンストレーションを行いました。

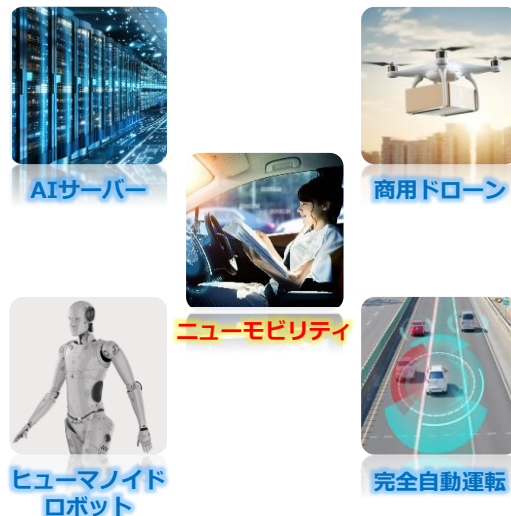
非常に速く正確に指が動く点が特徴であり、皆様にも大変驚かれました。指1本で5キロの荷重に耐えることができ、デバイスの前で指を動かすとその通りにロボットの指が動く仕掛けも用意しました。今回のCES出展は非常に良いタイミングとなり、現在かなりの数のお引き合いをいただいております。今後はお客様と丁寧に対話を重ねながら、サンプルの提供を通じて当社の高級部品がどの程度お役に立っているかを見極めていく方針です。既に多くのサンプル要求を現実に受けており、将来は明るいものと考えております。

製品ポートフォリオと注力成長分野を改めて定義し、29/3期の目標達成を目指す

コア製品「8本槍」(製品ポートフォリオ)



成長の5分野 (注力アプリケーション)



2026/2/5

23

次のページですが、当社の「8本槍」と「5本柱」の関係性が分かりにくいというご指摘を一部の投資家の皆様からいただきました。私の説明不足によりご不便をおかけしたことをお詫びするとともに、今回改めて内容を整理させていただきました。

まず、左側の「8本槍」は製品軸を表しております。

これは大きな市場の中のニッチマーケットにおいて、当社の強みを活かした相乗効果が期待でき、かつ将来にわたって無くなることのない製品群と定義しています。現在は8つの製品群に、それらを組み合わせた相合製品（プラスワン）を加えて展開しております。

一方、右側はこれらの製品を投入する「成長の5分野」です。これまでは「5本柱」と呼んでおりましたが、より分かりやすく「成長の5分野」と呼称することにいたしました。

具体的には、AIサーバー、商業ドローン、ヒューマノイドロボット、完全自動運転、そしてニューモビリティを指します。

ニューモビリティの進展により、A地点からB地点までを非常に快適に移動する「コンフォタビリティ」へのニーズが高まり、当社のさまざまな部品が活用されることとなります。これらを今後の成長ドライバーとして、改めて整理しました。

① 電源事業(SE)におけるマレーシア拠点での生産終了および会社清算

- ✓ 電源事業の収益体制改善および事業強化を目的として、マレーシアにおける生産を**2025年12月20日**をもって終了。
- ✓ 今後は生産をフィリピン拠点へ集約し、生産効率の向上とコスト競争力の強化を図る。

② MLSおよびASでの構造改革

総費用 (26/3期)

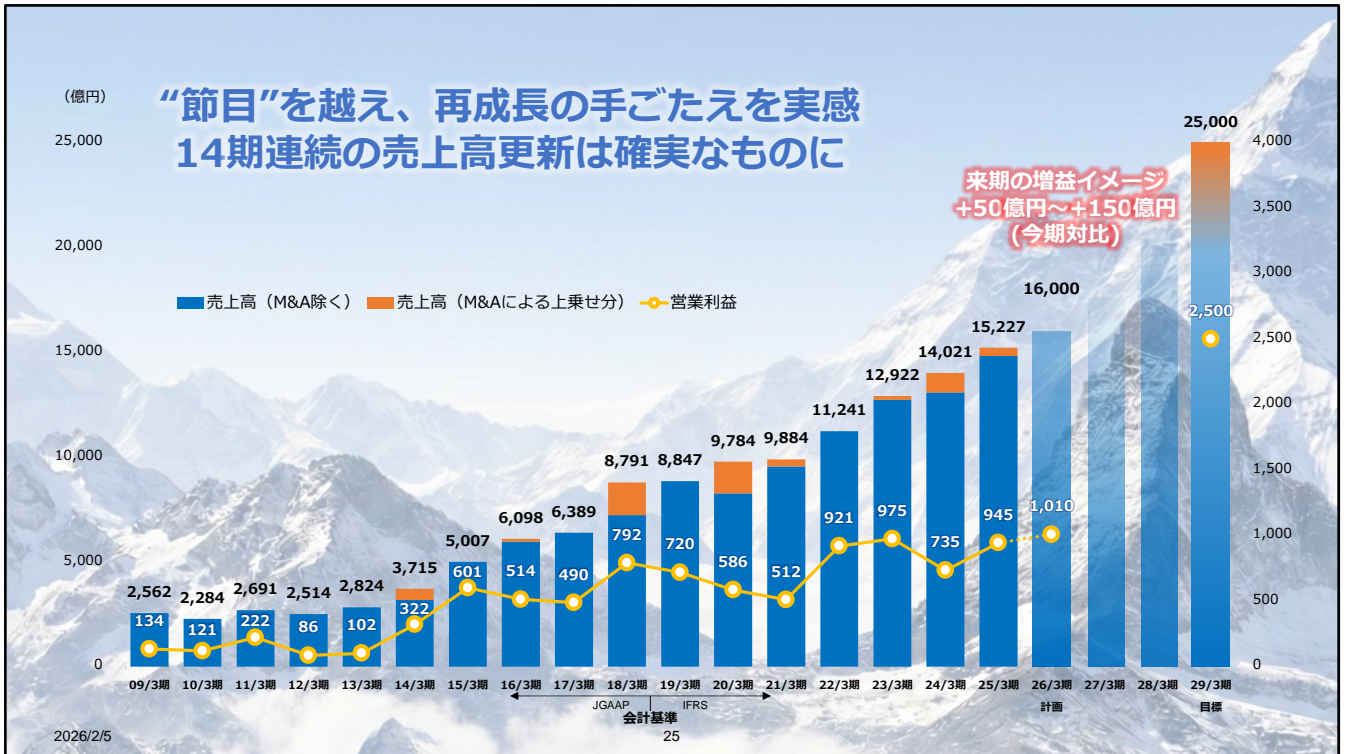
約 40 億円

3Qまで: 約10億円
4Q予定: 約30億円

年間効果額

約 25 億円

次に、先ほどからお話ししております構造改革についてです。
進捗状況については、こちらの資料に記載の通りでございます。マレーシアでの対応はすでに終了しており、今回実施する施策による効果額は、年間（12カ月換算）で約25億円を見込んでおります。



今期は14期連続の売上高更新を達成できる見込みであり、来期は15期連続の更新を目指しております。増益についても、今期で3期連続、来期は4期連続となる見通しです。

来期の公式な通期業績予想については、3月に最終的な予算を確定させた後、社会情勢やマーケットの状況を見極めながら調整を行い、5月の決算説明会にて正式に発表いたします。

一方で、皆様からは来期の見通しについて多くのお問い合わせをいただきます。そこで、当社が来期も成長を続けるというメッセージをお伝えするために、現時点でのイメージとして今回の数字をお示しいたしました。

先ほど申し上げた「成長の5分野」にも後押しされ、来期以降も成長を継続できるものと考えております。今回の数字はあくまでご参考としてお出したものであり、厳密な確定値ではなく、現時点での成長イメージとして捉えていただければ幸いです。

配当

中間配当は、前年同期比で5円増配。年間配当は50円を予定

26/3期 中間配当 **25** 円/株 26/3期 期末配当 **25** 円/株

(ご参考) 25/3期 年間配当45円 (中間20円 期末25円)

配当方針

持続的・安定的な配当：

中期的なキャッシュアロケーションポリシーに基づき、安定した配当を実施します

連結配当性向30%：

原則として連結配当性向30%程度をめどとしておりますが、経営環境を総合的に勘案し、決定します

長期的な信頼関係：

投資家の皆様との長期的な信頼関係を築くことを目指します

最後のページは配当に関する内容です。こちらにつきましては、私からの特段のコメントはございません。以上でございます。ご清聴ありがとうございました。



当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいておりません。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送を行わないようお願いいたします。

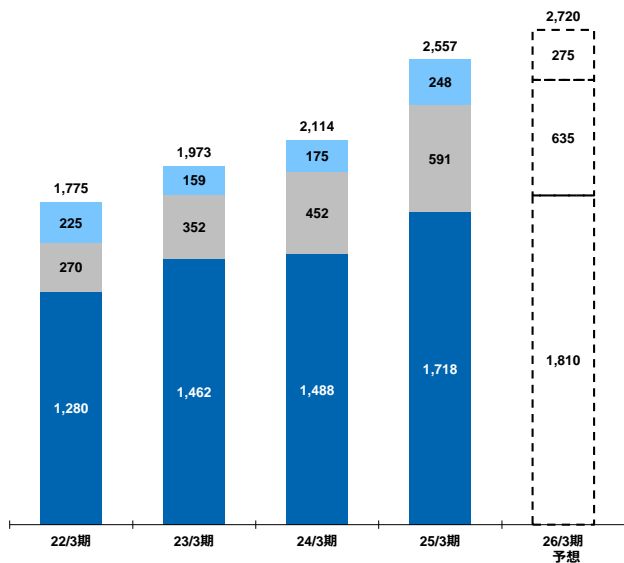
2026年3月期 第1四半期から、業績概要をより分かりやすくお伝えするため、原則として数値を億円単位の表記に変更いたします。(従来は百万円単位等)これに伴い、百万円単位の数値を四捨五入して表示しているため、本資料内の合計額や差額などが一致しない場合がございます。詳細な数値につきましては、別途開示しております決算短信や財務補足資料等をご参照くださいますようお願いいたします。

參考資料

プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

売上高 (億円)

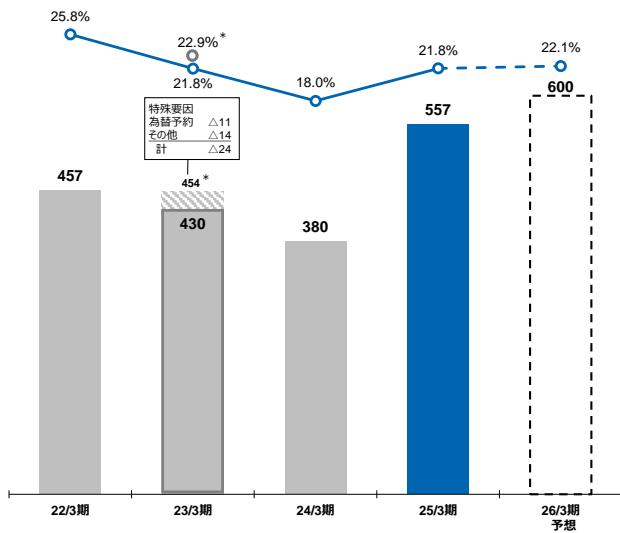
■ ボールベアリング ■ ロッドエンド・ファスナー ■ PMC



営業利益 (億円)

■ 営業利益 ○ 営業利益率

*特殊要因除く



2026/2/5

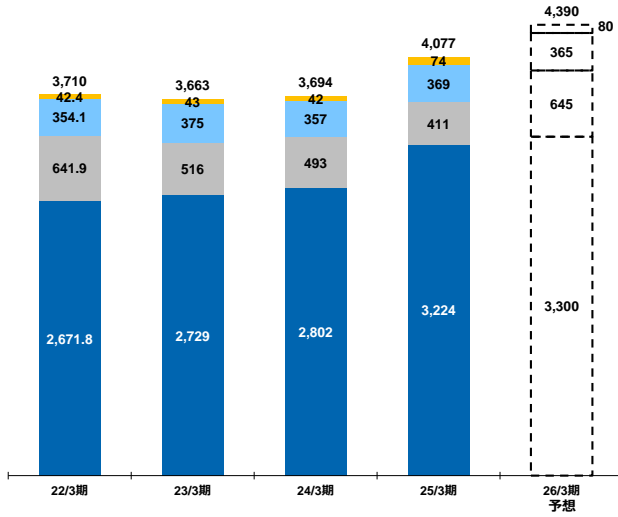
29

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

売上高 (億円)

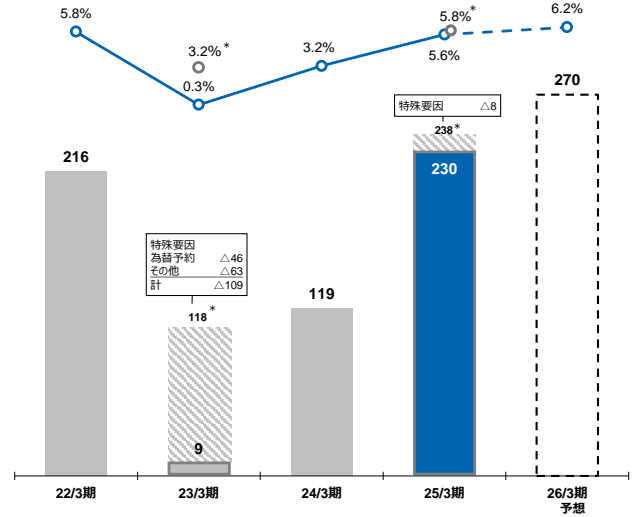
■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



営業利益 (億円)

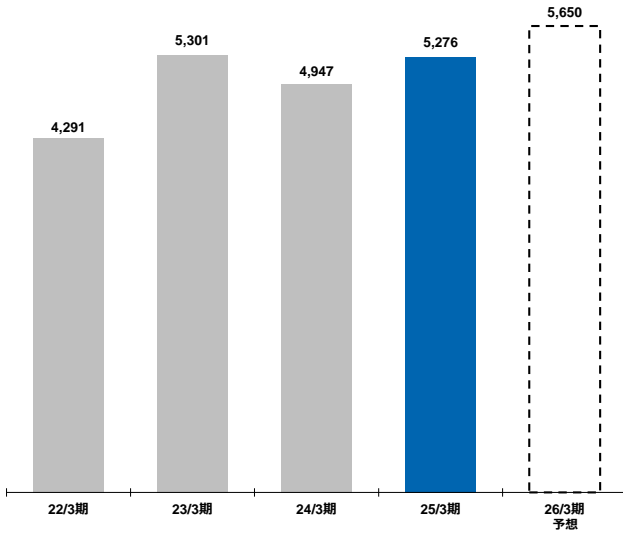
■ 営業利益 ○ 営業利益率

*特殊要因除く



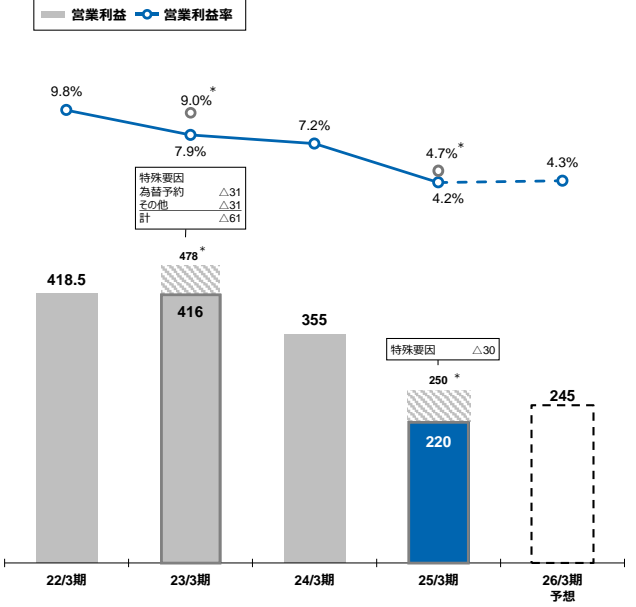
セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (億円)



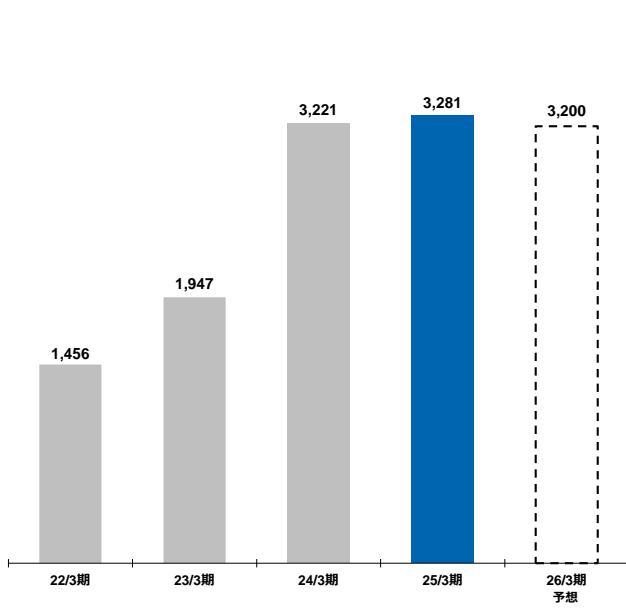
営業利益 (億円)

*特殊要因除く

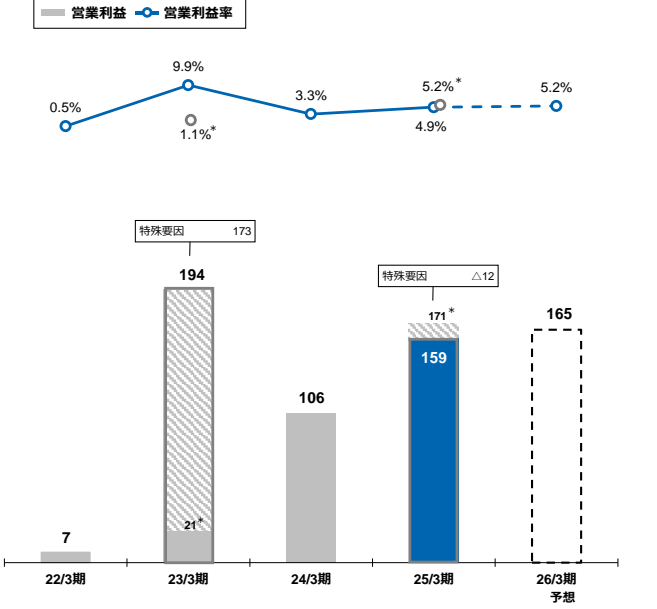


アクセスソリューションズ セグメント (AS)

売上高 (億円)



営業利益 (億円)

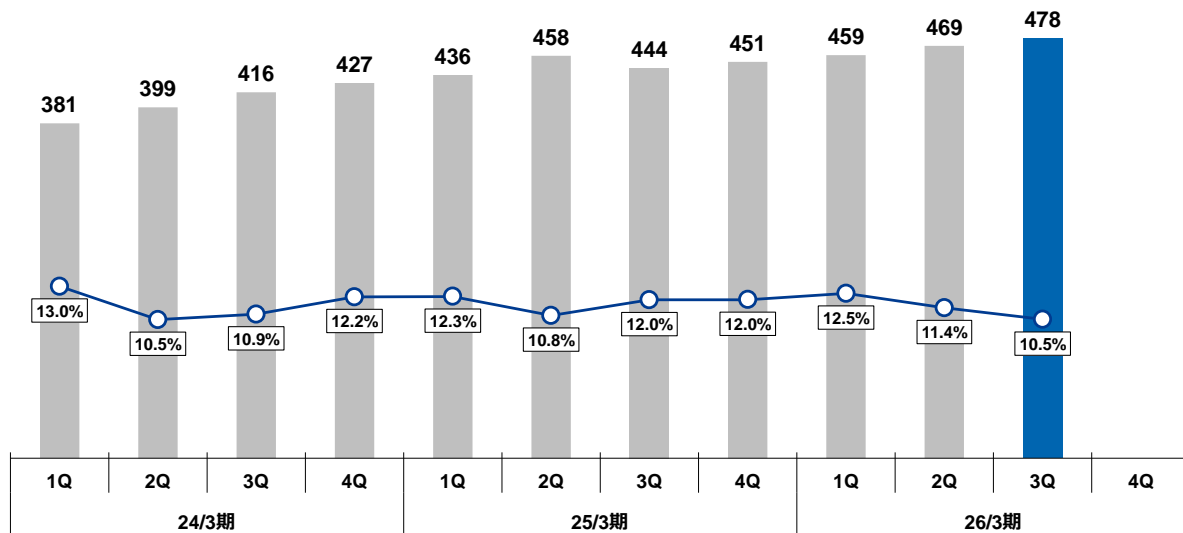


*特殊要因除く

販管費

(億円)

■ 販管費 ● 売上高販管費比率



2026/2/5

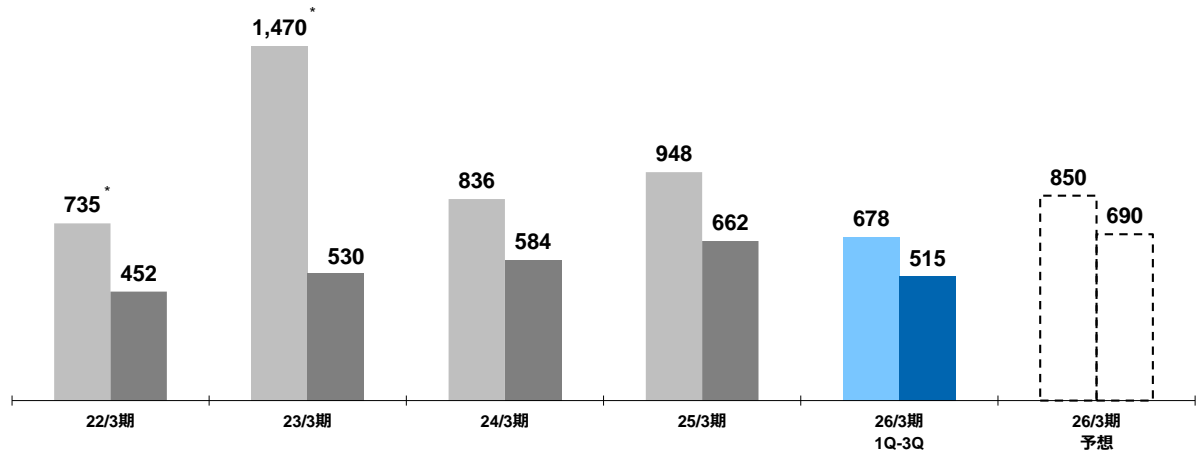
33

MinebeaMitsumi
Passion to Create Value through Difference

設備投資額・減価償却費

(億円)

■ 設備投資額 ■ 減価償却費

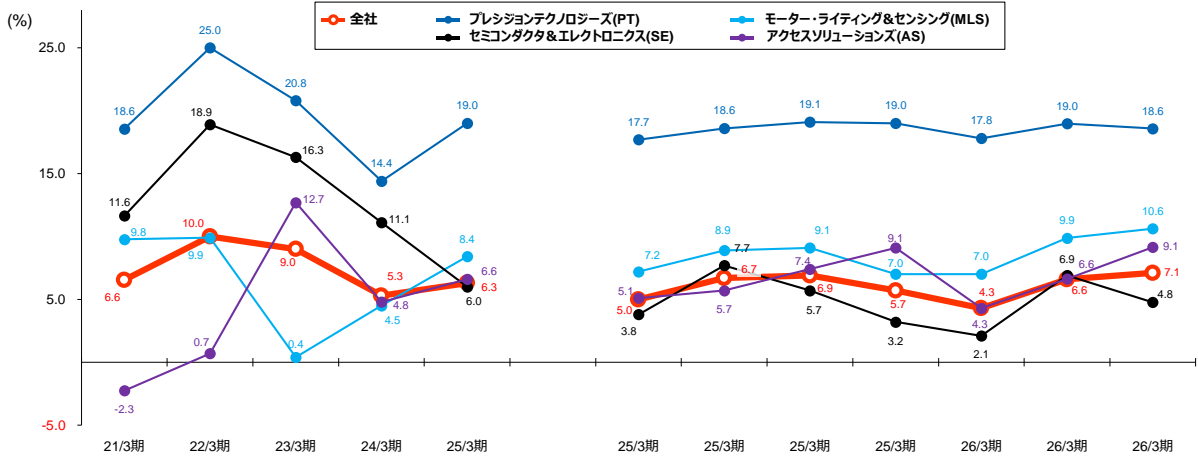


*22/3期、23/3期の設備投資額には、新本部ビル取得費用が含まれています。

ROIC (投下資本利益率)

$$\text{ミネベアミツミ版 ROIC} = \frac{\text{NOPAT (営業利益} \times (1 - \text{税率}))}{\text{投下資本 (受取手形・売掛金 + 棚卸資産 + 固定資産 - 支払手形・買掛金)}}$$

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出



※2025年3月期実績につき、セグメント変更による組み換えは考慮していません